

生産局長賞

高根沢町立学校給食センター

～学校給食での地場農産物活用による循環型農業の推進～

代表者：高根沢町教育委員会学校給食センター

所長 小林 美香子

所在地：栃木県塩谷郡高根沢町

構成員：職員 3名、調理員 22名

活動開始年月日：平成13年

表彰理由

学校給食センター、町、JA、高根沢町土づくりセンター等が連携し、学校給食への地場農産物の活用と循環型農業を推進。

学校給食における地場農産物活用品目数が30品目(20年度)まで増加するとともに、児童・生徒に対し、食を大切にする心や郷土を愛する心の醸成に貢献。

農業者にとって新たな流通・販売チャンネルとなり、町の農業振興に結びつくとともに、「品質の高い新鮮な食材を提供する」という意識が生まれ、農業者の生産意欲の向上にも寄与。

取組内容

1 地場農産物を学校給食で活用

- 地場農産物活用に向けた意見交換や情報交換を継続的に実施し、農産物の安定確保に向けた体制を確立。地場産米などをJA生産部会から導入するとともに、生産部会が組織されていない品目は生産者グループ「たんたんクラブ」を発足させて対応。
- 「地産地消メニューの日」の実施、郷土料理や行事食の活用、地場産米を原料とした米粉パンの導入等により、地場農産物の活用を促進。

2 学校給食を通じた食育の推進

- 栄養教諭による食指導において、地元産コシヒカリを題材に循環型農業を話題に取り上げるとともに、電気炊飯器を導入し、各教室での炊飯器給食を食指導と同時に実施。
- 給食献立表や給食だよりを活用し、地場農産物や地域農業者等の情報提供。町内の小中学校8校で「生産者と食べよう給食会」を年2回実施。
- JA青年部と連携し、田植えなどの農業体験を実施。収穫された農産物の一部は学校給食で使用し、食の大切さや農業の大切さの理解促進。

3 環境保全への取組

- 給食残渣は全て土づくりセンターに搬入。堆肥化後、給食用農産物の栽培に活用。
- 給食調理後に廃棄される食用油をバイオディーゼル燃料にリサイクルし、配送車の燃料に活用。これらの取組を栄養教諭が子どもたちへの食指導や環境学習等で活用。